

くまさんだより

豊橋東田教会 〒440-0055 豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435
ホームページ toyohashi-azumadakyokai.org 武井恵一牧師 080-3428-3200

2018年

6月号

6月24日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

6月19日 豊橋東田教会夕礼拝説教

「主よ、どこへ」武井 恵一牧師

ヨハネによる福音書13章36～14章7節 196頁

❖今夜の説教は先週の礼拝の説教を少し直し
てお話しします。 昨年クリスマス前に洗礼を
受け、ヨハネによる福音書はまだなじみがない
方、求道者として何度も来られている方、お仕
事の関係で夕礼拝に来られた方、それぞれに合
わせたいと願っています。

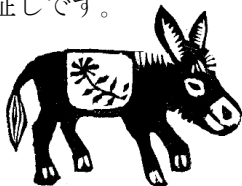
❖今日の聖書箇所はヨハネによる福音書13章
36節をもう一度読みます。

ヨハネによる福音書13章36節

³⁶シモン・ペトロがイエスに言った。「主よ、どこ
へ行かれるのですか。」イエスが答えられた。
「わたしの行く所に、あなたは今ついて来るこ
とはできないが、後でついて来ることになる。」

これは、ヨハネによる福音書での、イエス・キ
リストとの最後の晩餐です。マルコ、マタイ、ル
カ福音書には最後の晩餐が小見出しをつけて
記されていますが、ヨハネによる福音書では小
見出しも、これは「最後の晩餐」という言葉もあ
りません。

これは、同時に、ヨハネによる福音書で独自
に記されている様々な記事も共観福音書の記
事と同様に私たちに計り知れない福音の完成
を担っていることの証しです。



❖6月3日の礼拝でお話しした「新しい掟＝『あ
なた方に新しい掟を与える・互いに愛しあいな
さい』」は、わたしたちが実際の日々の中でキリ
ストを信じる者として過ごす日々には特別な意
味をもたらしています。

今日、お話ししている13章36節からの聖書の
言葉はごく普通に話された主イエスの言葉の
ように読めますが、この記事も、37節のペトロ
の決心が物語っているように、大きな意義を持
っています。

❖13章37節のペトロの言葉は、ペトロだけの言
葉ではなく、ペトロに代表される「キリストを
信じる者の、真心からの言葉として、私たちが
「自分の事」とし、心の奥にいつも活かしておく
言葉」です。

ヨハネによる福音書13章37節

³⁷ペトロは言った。「主よ、なぜ今ついて行けな
いのですか。あなたのためなら命を捨てます。」

この言葉がいつも心の奥に生きていること
によって「私たちの愛、お互いの愛、主なる三位
一体の神への愛、見知らぬ困窮している隣人へ
の愛」が、実際に「自分に出来ること」として、私
たちのうちに現れて来るからです。



❖「自分には、とてもできない」と意識したときに、改めて「主イエスを通して神に祈れば、人間としての限界は消える」体験につながるでしょう。もし、そう祈ってもなお実感がなく、「わたしにはとても……」とためらう心が後を牽くその時は、14章からの主なるイエスの親しい呼びかけがあります。

❖ヨハネによる福音書でのイエス・キリストの受難予告として、今日の個所、ヨハネによる福音書13章37節、更に18章15節から18節、同じく25節から27節がペトロの三度の否定として記されています。

主イエスは、37節のペトロの言葉の後にこう言われました。

ヨハネによる福音書13章38節

³⁸イエスは答えられた。「わたしのために命を捨てると言うのか。はっきりしておく。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。」

これを読むキリスト者は、エルサレムで主イエスがゲッセマネの園の近くで捕らえられた時、連行される主イエスの後を追いペトロー一人だけがユダヤ教大祭司のカイアファ邸の庭に人々と一緒に入り込み、主イエスの弟子ではないかと三度問われて三度とも否定した記事を知っています。

❖主イエスの言葉は、ユダの退場で高ぶったペトロの思いを静め、続く言葉で、神様の、そして主イエスの真実をペトロに、そして、弟子たち、女性たちに伝えます。

ヨハネによる福音書14章1～4節

¹心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。²わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。³行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。⁴わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」



❖ここで、あのオッチョコチョイで、それでいて「本当のこと」、「弟子たち皆が聞きたい、本当のことをズバリと平気で質問する」、あのトマスが言った。

ヨハネによる福音書14章5節

⁵トマスが言った。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるのでしょうか。」

多くの方々、聖書を丁寧に読まれたキリスト者の方々は、「えーっ、イエス様が福音の中心にされている『神の国』について、ここで、トマスが、直接質問したの……」と言われるかもしれません。

けれど、もう何度も聖書を読んでいる——でも、なかなか分からない私たちにとっても、この質問はズバリ的を射ているのではないのでしょうか？

ヨハネによる福音書14章6節

⁶イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。

❖この言葉は有名で、教会のなかに飾られていることも多い言葉ですが、この言葉が、トマスの質問に答える言葉とは思えません。別な言い方をすれば、この主イエスの言葉が、トマスの質問に答えられ、発せられた主イエスの言葉だということにわたしたちはほとんど気づきません。

❖主イエスは、トマスの質問のもっとずっと奥にある、根っこにあるイエス・キリストへの問いをオモテにあらわされ、根本そのものをトマスへの返事として語られた。

主イエスの言葉は続きます。

ヨハネによる福音書14章7節

¹「あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。」

これも、驚くほかない言葉です。わたしたちは「三位一体の神」をキリスト教神学の言葉・表現として知っていますが、これがどこで公(おやおやけ)の言葉になったかには気が付きません。

❖今日のこここそ、この聖書箇所こそ、主イエス・キリストご自身によってハッキリ私たちに示された記事そのものです。少なくとも、その一つです。聖霊については、別な記述があります。

今日の聖書箇所を先週の予告では14章の5節までとしましたが、準備する段階で7節までにし、週報で訂正いたしました、お詫びして改めます。

この箇所は重要なところで、特に14章8節が中心ですが、トマスの問いと、その答えまでを今日の区切りといたします。

❖先ほど、聖書朗読で14章6節の言葉も朗読しました。ここで5節から7節まで改めて朗読いたします。

そして、ここでは、特にギリシア語直訳を読みます。どうぞ、新共同訳を読み比べてください。

ギリシア語直訳聖書

ヨハネによる福音書14章6～7節

⁶イエスは彼に言う。「わたしは道、また真理、また生命である。わたしによってでなければ、だれも父のもとに行けない。」⁷わたしをあなた方が知ようになるならば、わたしの父をもあなた方は知る。そして、今すでに、彼をあなた方は知っている。そうだ、彼をあなた方は見たのである。」

「わたしは道」という言葉は旧約聖書申命記5章32～33節に次の様に記されています。

申命記5章32～33節

³²あなたたちは、あなたたちの神、主が命じられたことを忠実に行い、右にも左にもそれではならない。³³あなたたちの神、主が命じられた道をひたすら歩みなさい。そうすれば、あなたたちは命と幸いを得、あなたたちが得る土地に長く生きることができる。

❖「また真理」も、旧約聖書の詩編を始め様々な言葉があり、「命」も「生命」も旧約聖書で様々な言われています。

けれども、今、ここでイエス・キリストが言われ、朗読した言葉は「わたしは道」です。

何々であると他の何事を、また、在り方を指すのではなく、「主イエスご自身を、わたしは道」と特定された。



❖旧約聖書には、主イエス以前に語られた預言者の言葉、神様の言葉が色々記されています。今日、ヨハネによる福音書で主イエスの言葉として語られた言葉も「これは、イザヤ書にある言葉」、「これは、詩編の何編にある言葉」と、様々に注釈されています。

それは、ありがたいことで、それらによって記されている理解が裏付けられます。

❖けれども、今日朗読した聖書、主イエスが、ここで語られた言葉は、ここでは、旧約聖書に記され、どれほど権威ある歴史に残ることばであってもそれに言い換える必要はない、と申し上げます。

❖何よりの中心点、その本質本当の中心は「イエス・キリスト」にあります。

イエス・キリストを信じ、本当に人生で従う「イエス・キリストを道とし、真理とし、生命とする」ことが、他の何よりも本当であり、大切なのです。

そして、14章7節は、「わたしをあなた方が知るようになるならば、わたしの父をもあなた方は知る。」

「彼を」あなた方は「わたしによって」つまり、主イエスによって「見たのである」と言われた。

イエス・キリストと、父なる神は「一つである」と言われました。これこそ、真理です。

❖私たちは、旧約聖書の言葉や、預言の言葉によって救われるのではありません。

私たちが「主」と仰ぎ、信じるイエス・キリストによって、その「父と同じであるイエス・キリストによって、さらに、聖霊に支えられて「永遠の喜び——神の国」へ招かれて生きるのです。

私たちは新約聖書によって「イエス・キリスト」を様々な形で知ります。私たちが「イエス・キリスト」を知れば知るほど、「道であり」、「真理であり」、「生命である」、と聖書は、そして、イエス・キリストご自身が指し示し、父なる神ご自身も、この重大な発言に対して何一つ異議を現わされていないことをここで意識し、心に刻みます。

ここでこそ、私たちが三位一体の神を確認し、改めて心に刻み、神の国を改めて知る言葉です。

祈り 讃美歌(21)483「わが主イエスよ」



新共同訳聖書

〔ヨハネによる福音書13章36～14章7節〕

³⁶シモン・ペトロがイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのですか。」イエスが答えられた。「わたしの行く所に、あなたは今ついて来ることはできないが、後について来ることになる。」³⁷ペトロは言った。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら命を捨てます。」³⁸イエスは答えられた。「わたしのために命を捨てると言うのか。はっきり言っておく。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。」

14

¹「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。²わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。³行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。⁴わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」⁵トマスが言った。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるでしょうか。」⁶イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。⁷あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知るようになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。」

教文館 日本語対訳ギリシア語聖書

〔ヨハネによる福音書13章36～14章7節〕

³⁶シモン・ペトロは彼に言う。「主よ、どこにあなたは行くか。」イエスは彼に答えた。「わたしが行く所に、今わたしに従うことはあなたにはできない、しかし、後にあなたは従うことになる。」³⁷ペトロは言った。「主よ、なにゆえ今、あなたに従うことが私に出来ないか。あなたのために私の命を私は捨てよう。」³⁸イエスは答える。「わたしのためにあなたの命をあなたは捨てるのか。まことに、まことに、あなたにわたしは言う。三度わたしをあなたが否定する前ににわとりは決して鳴かない。」

14

¹「あなた方の心が動揺しないようにせよ。神をあなた方は信じよ。そして、わたしを信じよ。²わたしの父の家には多くの住居がある。もしなければ、あなた方のために場所を用意するためにわたしは行くと。あなた方にわたしは言ったであろうか。³そして、わたしが行き、そして、あなた方のために場所を用意しなら、再びわたしは来る。そして、あなたがたをわたしのもとに迎えよう。わたしのいる所に、あなたがたもいる。⁴そして、わたしがどこに向かって行く道をあなたがたは知っている。」⁵トマスは彼に言う。「主よ、どこへあなたが行くか、私たちは知らない。どうして、その道を知ることが私たちはできるか。」⁶イエスは彼に言う。「わたしは道、また真理、また生命である。わたしによってでなければ、だれも父のもとに行けない。」⁷わたしをあなた方が知るようになるならば、わたしの父をもあなた方は知る。そして、今すでに、彼をあなた方は知っている。そうだ、彼をあなた方は見たのである。」

